

## ポートフォリオ活用の試み ーニューデリー日本文化センターの場合ー

アヌシュリー

ニューデリー日本文化センター

### 1. 実践の背景

最近の言語学習研究においてポートフォリオが重要な役割を果たすことは明らかになってきている。「日本語の教え方、学び方、学習成果の評価を考えるツール」<sup>(1)</sup>である JF 日本語教育スタンダード（以下、JF スタンダードと略す）は「相互理解」を理念としているが、ここでもポートフォリオは重要な要素の一つになっている。ポートフォリオは「相互理解」の確認の手段であるとともに、学習者にとっては自分自身の学習成果・過程・方法を評価するためのツールでもある。しかし、ポートフォリオは、インドではまだ、ほとんど使用されておらず、筆者自身、その用途や意義について理解できていない部分が多かった。そのため、ポートフォリオの理解を深めるためにポートフォリオ導入に挑戦してみた。

インドのニューデリー日本文化センター（以下、ニューデリーセンターと略す）では、2011年に JF スタンダード準拠教科書『まるごと 日本のことばと文化』（以下、『まるごと』と略す）を導入し、JF 日本語講座が開始された。当初は、入門コースのみで、『まるごと』の巻末にある Can-do チェックや日本語チェックシートを使用し、2、3年後からはオリエンテーションの時に、Can-do チェックシートと日本語チェックシートをコピーして学習者に配付したが、学習者はそれらのチェックシートを十分に活用することはなかった。また、授業中、『まるごと かつどう』にある「生活と文化」のページを時間をかけて扱ったにもかかわらず、学習者は、日本文化について理解したことや気づいたことを記録に残すことはなかった。これらすべてをポートフォリオとしてまとめることができれば、学習者・教師両方にとって意義のあるものになるのではないかと考え、2014年11月に開講した日本語講座（第2学期）において、ポートフォリオを正式に導入することにした。導入に当たっては、まず、学習者がポートフォリオに対してどのような考え方を持っているか、ポートフォリオの意義をどう理解しているかなどについて、意識調査（アンケート調査）を行った。

本稿ではニューデリーセンターでのポートフォリオ活用の実践を報告し、学習者のポートフォリオに対する理解・意識をアンケート分析によって探り、反省点や課題などを論じる。

## 2. コース概要

表1：ニューデリーセンターの日本語コースの概要

講座名	JF 日本語講座
レベル	A1,A2-1
期間	2014年11月～2015年3月（一部は5月に終了）
授業時間	120分@1回、週1/2回×17週＝17回/34回（中間試験、最終試験を含む）
使用教材	『まるごと入門 A1』『かつどう』・「りかい」 『まるごと初級 1』『かつどう』・「りかい」

クラス別の詳しい概要は表2のようになる。

表2：ニューデリーセンターの日本語コース・クラス別概要

	レベル	かつどう・りかい	回数	曜日	人数
1	入門 A1 1-10 課	かつどう	1	土	23
2	入門 A1 1-10 課	かつどう	1	水	10
3	入門 A1 1-18 課	かつどう	2	火・木	19
4	入門 A1 1-18 課	かつどう	2	月・水	15
5	入門 A1 1-18 課	りかい	2	火・金	18
6	入門 A1 1-18 課	りかい	2	水・金	19
7	入門 A1 11-18 課	かつどう	1	月	13
8	初級 A2-1 1-10 課	かつどう＋りかい	2	月・木	19
9	初級 A2-1 11-18 課	かつどう＋りかい	2	火・金	11
10	初級 A2-1 11-18 課*	かつどう＋りかい	1	火	12
11	初級 A2-1 11-18 課	かつどう R**	1	木	14

\*このコースは他のコースより2ヶ月コース期間が長い。

\*\*「かつどう R」は「かつどう」のローマ字コースを指す。

ニューデリーセンターは2学期制であり、週2回の場合は教科書1冊、週1回または「かつどう」と「りかい」を交互に使用する場合はそれぞれの教科書の半分が終わる。2014年の2学期は、「入門」と「初級1」、全部で11コースを開いた。本稿では、「かつどう」のみを使用したクラス（表2の1, 2, 3, 7）と、「かつどう」と「りかい」を交互に使用したクラス（表2の8, 9, 10）、計7クラスのポートフォリオ使用実践を報告する。

## 3. ポートフォリオの作成

### 3.1 ポートフォリオの定義

『JF 日本語教育スタンダード・利用者ガイドブック 2010』では、ポートフォリオを以下のよう

に定義している。  
「ポートフォリオは、「課題遂行能力」と「異文化理解能力」を育成するために、学習者一人一人が学習過程を記録し、保存するものです。学習者は、日本語の熟達度を自己評価し、自分の言語的・文化的体験を記録します。学習過程を記録し、振り返ることで、学習成果の評価のツールとして使うことができます。」<sup>(2)</sup>

この定義によれば、ポートフォリオとは、学習者が自分の学習過程、学習内容、学習方法を

振り返り、自分ができること、できないこと、自分に不足していること、努力すべきところを自分で把握し、評価できるツールだということができる。そして、JFスタンダードの理念の重要な一部として捉えられている「異文化理解」について、学習者は、授業で議論し、意見交換したこと、その中で自分が気付いたことなどを、「言語的・文化的体験の記録」や「学習の成果」として記録に残し、ポートフォリオの中に整理・保管することができる。

### 3.2 ポートフォリオの目的

ニューデリーセンターの学習者の日本語学習を始めた動機や日本語に対する学習ニーズはそれぞれ異なり、年齢、学習歴によって講座に求めていることもまた違うと思われる。そのため、ポートフォリオ作成の一つの目的は、学習者が日本語学習を始めた動機や学習目標を確認し、現在の自分の日本語学習動機や学習目標との変化を認識し、これからの日本語学習のイメージを持たせることであった。どうして日本語学習を始めたのかまで振り返って、何をしたいのかを長期的に考えて、現在の自分がどこにいるのか、これでいいのか、これまでの学習方法でいいのかを考えさせる機会を与えることがポートフォリオの重要な目的であった。ポートフォリオを、学期別・レベル別に学習者が自身の成長、学習内容を振り返るためのツールにすることが重要であった。

### 3.3 ポートフォリオの構成

ポートフォリオを My Japanese Language Portfolio と名付け、入門1と初級1 (A2) に同じものを導入した。内容物は表3の通りである。

表3：ポートフォリオの内容物一覧

学習過程の記録 My Japanese Language Study Map	文化体験の記録 Culture Experience	自己評価 Self Assessment	振り返りの ツール Review tool
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人情報(名前、年齢など)</li> <li>・ 日本語学習歴</li> <li>・ 日本語を勉強し始めた理由</li> <li>・ 学習目的</li> <li>・ 日本語講座への期待</li> <li>・ 今の学習方法で満足しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『まるごと』文化体験シート</li> <li>・ 授業外文化体験シート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Can-do チェックシート</li> <li>・ 日本語チェックシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語彙リスト</li> <li>・ 漢字ワークシート</li> <li>・ 作文シート</li> <li>・ 宿題</li> </ul>

#### (1) 学習過程の記録

この部分を My Japanese Language Study Map と名づけ、学習者の個人情報（名前、年齢、性別、コース名など）を記入してもらった。日本語学習歴、日本語学習を始めた動機、目的など

の欄も設けた。そして、講座に対する期待、将来日本語をどう使いたいのか、どう日本文化を体験したいのかについても質問を設けた。さらに、自己評価にもつながるような、「日本語学習者として自分をどう評価するのか、」そして、「今の学習方法で満足しているか」なども質問した。この2つの質問は、初心者対象としなかった。これらのすべての情報は、学習ニーズや動機付けの理解、学習継続の必要性にかかわるもので、自立学習の意識化にも繋がると思われる。

## (2) 文化体験の記録

これは、主に二つに分けた。「まるごと文化体験シート」と「授業外文化体験シート」である。

### ① 「まるごと文化体験シート」

『まるごと』の「かつどう」では、各トピックは2課に分けられ、各トピックの終わりに「生活と文化」が取り上げられ、日本社会のある場面が写真で紹介されている。ニューデリーセンターの授業では、写真について教師が説明した上で、ビデオを見せたり、インドではどうだろうという観点から日本とインドを比較しながらディスカッションしたりしている。その後、学習者が写真やディスカッションで気づいた点や考えたことをクラス全体でディスカッションする。学習者は、この作業を通して感じたこと、考えたこと、思いついたこと、自国の文化との相違点・共通点などを「まるごと文化体験シート」に記入する。記述言語は自由である。教師は文化体験シートを定期的にチェックし、その内容を確認する。入門 (A1) と初級 1(A2)の「生活と文化」のトピックを以下の表にまとめる。

表4:『まるごと』入門と初級1「かつどう」の「生活と文化」トピック

トピック	入門 A1	初級 1 A2
1	なまえ	つまとおっとのやくわり
2	かぞく	「すずしい」なつ
3	ファーストフードの店	いろいろなまちなみ
4	へや	まちあわせ
5	あさとよる	がいこくぶんかをたのしむ
6	日本のきせつのイベントとしゅくじつ	おべんとう
7	日本のまち	日本のかいしゃ
8	おみやげ	けんこうほう
9	日本のかんこうち	プレゼントのおくりかた

### ② 「授業外文化体験シート」

訪日機会が非常に限られたインドの学習者ではあるが、日常生活の中で日本文化を体験できる機会は少なからずある。例えば、日本人と話したり、日本料理屋へ行ったり、展示会やニューデリーセンターなどで行われる日本文化のイベントを見たりすることである。それらの教室外での個人的な文化体験を「授業外文化体験シート」に記述するよう求めた。体験を記録し残

すことは、あとでそれを見たり、ふり返ったりするときに学習者の考え方や感じ方、意識などに影響を与えることもあるであろう。記録に残したいから見に行く、自分が観察したことや体験したこと、感じたことを自分の言葉で表現したいという想いで学んだ知識や情報を活かして活動するようになったり、何を書くかという目線で周りの出来事や現象を見るようになったりするなど、学習者の成長に繋げることが目的であった。「授業外文化体験」は行く時間や回数や記入時間・記入言語などは各自の自由に任せた。

### (3) 自己評価

JF スタンドでは、教師が一方向的に学習者を評価するのではなく、学習者が学習内容の理解度・使用度を考え、自分自身を評価する仕組みになっている。『まるごと』では、巻末の「Can-do チェックシート」と「日本語チェックシート」を使用することで、学習者の自律的な学習を支援しようとしている。各レベルに合ったシートをコピーして配布し、授業終了後、学習内容の理解度などを自己評価させて、各自記入するようにした。

### (4) 振り返りのツール

ポートフォリオのもう一つの主な目的は、振り返りのファイルとして使われることである。各授業で配布される資料、漢字シート、語彙シート、宿題なども同ファイルに入れ保管する。それらは、期末試験や学期終了後の復習や振り返りのためだけでなく、学習者が自分の学びのプロセスとその内容を確認するためにも使われる。

## 4. ポートフォリオの活用

学期の初日にオリエンテーション終了後、30分ぐらいの時間を設け、学習記録（上掲表3の内容物）を保管するファイルを配布した。ポートフォリオの形はいろいろ自由であるが、ニューデリーセンターでは後に授業中配布されるものも収納できるようにファイルを配布した。その後、ポートフォリオの意義や目的、その構成を簡単に説明した。ポートフォリオは学習者に身近なものであることを理解させることが非常に重要で、学習者がポートフォリオを作成することで自分の学習資料の整理・管理ができるということを理解できれば、ポートフォリオの意義は把握しやすくなると思われる。説明した後「学習過程の記録」に必要な事項を記入してもらった。この部分は非常に重要であり、ニューデリーセンターでは、学期初日にクラス内で特別に時間を取り、学習者に記入させた。その時点であれば、学習者が自分の日本語学習動機や学習継続理由を明確に意識していると考えたからである。なお、学習過程の記録や学習者の個人情報などは各自記入してもらった。教師はそれを回収し、内容を確認し返却した。その後、学習者は定期的に記録シートに記入し、授業中配布されるものを保管していった。

## 5. ポートフォリオの実施結果

### 5.1 文化体験シートに見る記入例

文化体験シートには以下のような記述があった。初級1 (A2) の「まるごと文化体験シート」の「おべんとう」というトピックでは、まず、教師が日本のお弁当について簡単に説明した後、ドキュメンタリービデオを見せた。その後、インドの弁当について話し合った。そのディスカッションの結果として、学習者の記述に以下のようなものが見られた。

MB さん: Today in class we saw a BBC program of T.V. about lunch boxes. In Japan people eat packed lunches on many occasions, different types of packed lunches like station lunch, convenience store lunch, character themed lunch.

RJ さん: Lunch boxes are totally different in Japan as compared to India. In Japan mothers try to give lunch box filled with decorative style. Japanese women prepare lunch box with innovative ideas and small children also love and enjoy.

日本語で記述している例もある。以下は、トピック「けんこうほう」「プレゼントのおくりかた」を扱った授業後の記述である。

#### 「けんこうほう」

PM さん: わたしは けんこうの ときまいにち 朝6時に さんぼしたり、サイクリングしたりします。やさいとくだものたべます。

#### 「プレゼントのおくりかた」

PM さん: せんげつ わたしの たんじょうびだったんです。ともだちがきました。たくさんプレゼントを もらったんです。たとえば、はなとか、サリーとか へやにかざるものです。うれしかったですよ。

このような記述から学習者がビデオなどを見て授業中、議論したことについて、自分の気づきや理解を記述していたことがわかった。学習者は、授業中のディスカッションを振り返って書くことで、日本という異文化への意識・理解が深まり、かつ自文化との比較で「相互理解」に結び付けているのではないだろうか。文化体験記録は「見て終わり」ではなく、見て学んだこと、気づいたことを残すことで、振り返ってチェックできる機会を与えることができる。

「授業外文化体験シート」には以下のような記述が見られた。

MB さん:

- I went to Taiko show yesterday at Shri Ram Center, It was amazing. I was wondering how Japanese people do Taiko with full energy.
- わたしは家族といっしょにたむら Restaurant に行きました。すしとてんぷらはおいしかったです。

MC さん:

- I went to see Oritai exhibition held at JF on 9.12.14. The exhibition was beautiful as well as informing a lot about Japanese tradition and festivals.
- I went to see the Japanese language stall at the DU fest(Delhi University festival) and saw calligraphy being done.
- Attended 3 chat rooms at JF. I talked to many Japanese guests and learned things about Japan like New Year celebrations, festivals and food.

報告者のクラス（表2のコース10）では、報告者がチェックシート記入や文化体験の記録をくり返し指示したこともあって、かなりの学習者が記録を残していた。しかし、他のクラスのポートフォリオを見てみると、Can-do チェックシートと日本語チェックシートは記入されていたが、文化体験シートは、ほとんどが空白であった。そのため、ポートフォリオに対する学習者の理解や態度を把握することを目的にアンケート調査を行うことにした。

## 5.2. アンケート

アンケートは、①ポートフォリオを学習過程の記録の手段として使ったか、②ポートフォリオで自己評価できたか、③言語学習におけるポートフォリオの役割が理解できたか、の三つの部分から成る。この三つの項目について、さらにいくつかの質問を設け、アンケートを整理し、期末試験日に学習者に記入してもらった。アンケートは、すべて4肢選択で回答を求め、さらに、ほとんどの質問に「どうしてそう思うのか」の自由記述欄を設けた。

### 5.2.1 アンケートの集計と分析

アンケート調査の回答者の概要は以下の通り。

表5：アンケート調査の回答者の概要

	女性	男性	不明	合計
A1 レベル	18 人	20 人	4 人	42 人
A2 レベル	11 人	14 人	1 人	26 人
合計	29 人	34 人	5 人	68 人

以下に、各質問に対する学習者の回答の集計結果と代表的な記述を表にまとめる。

#### (1) 学習過程の記録の手段としてのポートフォリオ

質問1 「このコースで達成できたことは何ですか。」（回答は自由記述）

回答者の記述内容をカテゴリー化し、レベル別に表6にまとめた。表中（数字）は回答者数を示す。

表6：質問1に対する回答

	入門 (A1)	初級1 (A2-1)
会話	・基礎的な会話ができるようになった (10) ・日本語で話すようになった (19)	・自信を持って会話ができるようになった (8)
文法		・文法についてわかった/文法の理解が深まった (5)
文化	・日本文化についてわかった (6)	・文化についてわかった/理解が深まった (4)
読み書き		・読み書きの力が身についた (2)

ニューデリーセンターでは、2014年の2学期の入門 (A1) は、「かつどう」を扱うコースであり、初級1 (A2) は、「かつどう」と「りかい」を交互で扱うコースであった。入門 (A1)

コースは初めて日本語を学習する者が多く、そのため、回答をみると「会話」と「文化」についての記述がよく見られる。一方、初級1（A2）は継続学習者が多く、また、文字が導入されることもあり、「文法」や「読み書き」に関する回答が見られ、回答に多様性があった。もう一つの特徴は「自信」である。入門（A1）の「基本的な会話ができるようになった」というコメントが、初級1（A2）では、「自信を持って会話するようになった」というコメントに変わった。

質問2 「目標としていたことが達成できたか。」（回答は4肢選択と自由記述）

まず、回答者数を見てみよう。

とても：40人	やや：27人	あまり：0人	ぜんぜん：0人	N.A.：1人
---------	--------	--------	---------	---------

この質問の回答内容をカテゴリー化した結果、大きく「自己評価」「達成度」のカテゴリーに分けられ、その他に「教師の教え方」「講座全体についてのコメント」「学習継続」「自己評価」に関するコメントも見られた。レベル別に学習者の回答を見てみよう。

表7：学習者のレベル別コメントの概要

		入門（A1）	初級1（A2）
自己評価	会話	日本語で会話できるようになった（10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語についてもっとわかった</li> <li>習ったことが使える</li> <li>ある意味できた。以前会話の場合は問題があったが、今改善した</li> </ul>
	学習	もっと勉強したい（3）	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと練習したい</li> <li>会話の練習ができたなら、もっとよくできたかもしれない</li> <li>大学で働いているから、忙しくてあまりよくできなかった</li> <li>基本がわかる</li> </ul>
達成度		<ul style="list-style-type: none"> <li>名刺交換でき、挨拶できる</li> <li>数えることができ、趣味も聞くことができる</li> <li>いつも日本の生活と文化について知りたかった、よくできたといえる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢で考えたことができ、いいです</li> <li>違いがわかる、それが目的であった</li> <li>まだ習うことがたくさんある</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>よく教えられて、よく日本語がわかった</li> <li>JF はいい施設である</li> <li>日本は夢の国である</li> <li>試験はよくできた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>このコースはN5と同様である</li> <li>続けてください</li> </ul>

本質問に対する回答には一貫性が見られない。回答者数を見ると68人中40人が「とても」と答えているが、記述を見ると、コース内容、学習内容に関する記述が多い。本設問の目的は学期初日に目標としていたことが達成できたかということであったが、上掲の記述を見ると、学習者は授業で行った活動や練習がうまくできたかどうかについての評価が中心で、コース開始の時点で考えていた目標との関係はあまり見られない。「違いがわかる。それは目的であった。」



という記述もみられるが、そのコメントからは、どこで、どのような違いがわかったのかはわからない。作成者側からの狙いや期待としては、学習者が、授業の内容や活動が自分の学習動機や学習目的に適っていたかどうかをふり返り、その上で自分の学習や日本語習得についての程度満足できたのか、どの程度の達成感が得られたのかを答えてもらうことであった。しかし、学習者はそこまでふり返って答えるということにはなかったようである。

### 質問3 「来学期の目標は何か？」(回答は自由記述)

答えは自由記述であり、回答の内容は、大きく「進級」「4技能の習得」「文法の習得」「日本語能力試験」、4つのカテゴリーに分かれた。

表8:「来学期の目標」についての回答の概要

	入門 (A1)	初級1 (A2)
進級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次のレベルに行きたい</li> <li>・A1「かつどう」を終わりたい/A2のクラスに行きたい(11)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級して、会話を改善したい</li> <li>・日本語の勉強を続けたい</li> <li>・授業に良く出て、よく勉強したい(3)</li> </ul>
四技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語で書くことを習いたい</li> <li>・日本で暮らせるように、もっと日本語の会話を習いたい</li> <li>・日本の文法と文字を習いたい(10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字と新語彙を習いたい</li> <li>・会話を改善したい(8)</li> </ul>
文法の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語で文作成と文法を習いたい</li> <li>・基本的な文法を習いたい(8)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと文法を習いたい(2)</li> </ul>
日本語能力試験		<ul style="list-style-type: none"> <li>・N3に合格する</li> <li>・N4-N3に合格したい(4)</li> </ul>

入門は次のレベルに進みたい学習者が多くいるが、初級1(A2)の場合は日本語能力試験が学習者の学習目標となっているため、四技能の習得や文法の習得に関する記述が多く見られるようになる。それらは日本語学習の目標としては適切なものであるが、問題は質問1との関連性と自身の日本語学習の全体イメージを把握することである。この質問は、ポートフォリオ分析のために非常に重要で、質問1と深い関係がある。このコースで達成できたことと来学期の目標が学習者の日本語学習の動機と将来像にどのように繋がっているかが重要である。「進級」や「4技能の習得」は学習継続の理由ではあるが、質問1と2との関連性は乏しい。学習者は一つ一つの質問を単独で捉え、その継続性は把握できていないように思われる。日本語の勉強を始めて、自分が設定した到達目標に照らし合わせて、今、自分の学習がどこまで進んで、これから自分は学習をどのように進めていけばいいかについて、自分の考えをポートフォリオにまとめることはできなかったと思われる。

### 質問4 「ポートフォリオに定期的に記入したか。」(回答は4肢選択)

上掲の質問4に対する回答は、以下の通り。

とても: 36人	やや: 21人	あまり: 9人	ぜんぜん: 1人	N.A.: 1人
----------	---------	---------	----------	----------

68人中57人は「とても」や「やや」と答えたが、Can-do チェックシート、日本語チェックシートはともかく、「生活と文化」や「授業外体験シート」には記述はほとんどなかった。

## (2) 自己評価の手段としてのポートフォリオ

### 質問5 「ポートフォリオは自己評価に役立ったか。」

本質問の回答は4肢選択と自由記述の両方である。調査結果は以下の通りである。

とても：32人	やや：30人	あまり：4人	ぜんぜん：1人	N.A.：1人
---------	--------	--------	---------	---------

68人中62人、おおよそ9割は「とても」や「やや」と答えている。自由記述の内容は大きく「自己評価」と「復習」のカテゴリーに分けられた。

表9：「ポートフォリオによる自己評価」についてのコメントの概要

	入門 (A1)	初級1 (A2)
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・星一つか二つだったらよく練習した</li> <li>・「自己評価できた</li> <li>・宿題の間違いを繰り返さないようにした (4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価にいい</li> <li>・自分をよりよく知るため</li> <li>・自分に正直になる (5)</li> </ul>
復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス内容の復習</li> <li>・トピックの復習」(2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プランの維持</li> <li>・忘れるとき思い出しにいい (2)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり見なかった</li> <li>・これなしでも自己評価できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よくするよう動機付けになる</li> <li>・仕事で忙しかったからあまり書かなかった</li> <li>・定期的に書かなかった</li> </ul>

自由記述の回答を見ると、ポートフォリオを自己評価に使用している学習者はかなりいた。チェックシートの星を塗りつぶすことで自己評価したり、宿題の間違いを繰り返さないようにしたなど、学習に対する自己評価は見られた。

「改善するよう動機付けになる」「日本語について自分の弱点が分かる」「自分に正直になる」「自分にできることがよく把握できた」「星一つか二つだったらよく練習した」など、学習者は自身の日本語力や学習方法の振り返りや、復習や学習過程・内容の確認に使う学習者も多くいた。

### 質問6 「Can-do チェック・日本語チェック言語学習に役立つか。」(回答は2肢選択)

はい：54人	時々：2人	N.A.：11人
--------	-------	----------

この設問には自由記述欄を設けなかった。Can-do チェックシートと日本語チェックシートは、授業中、記入させたこともあり、8割の学習者が定期的に記入していたことがわかる。

## (3) ポートフォリオ活用に対する理解度

### 質問7 「ポートフォリオは言語学習に役立ったか。」(回答は4肢選択と自由記述)

「ポートフォリオは日本語学習に役に立ったか」という質問に対して、回答者の回答は以下の

ようであった。

とても：29人	やや：26人	あまり：2人	ぜんぜん：1人	N.A.：10人
---------	--------	--------	---------	----------

68人中55人、約8割の学習者が言語学習に役立ったと肯定的に回答している。では、回答者はどのような記述を残したのだろうか。表10は、自由記述の内容をカテゴリー化し、レベル別にまとめたものである。

表10：「ポートフォリオの理解」についてのコメントの概要

	入門 (A1)	初級1 (A2)
宿題	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業後の勉強に宿題がいい。PFは宿題の一部である</li> <li>宿題や語彙リスがあつて、訂正で改善するようにいい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題は役に立った</li> </ul>
弱点を教える	<ul style="list-style-type: none"> <li>長所を短所を教える</li> <li>弱点を見せられ、もっと勉強する点を教える</li> </ul>	
復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>改善したことがわかり、復習にいい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使いやすくて、復習にいい</li> <li>習ったことの復習にいい</li> <li>トピックごとに記録することができる</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で何をしたか把握できる</li> <li>自分について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>執筆能力が増す</li> <li>定期的に作文を書くことで練習になる</li> <li>コース目標についてよくできるようになった</li> </ul>

表10に見られるように、ポートフォリオが回答者の日本語学習に役立ったかどうかについては、自由記述には明示的には述べられていない。学習者にとって、ポートフォリオは、言語学習の過程・プロセスを確認し把握できたからではなく、ファイリングとして非常に便利で復習や配布資料（語彙シート・宿題など）の保管に役立つというものであった。

質問8 「ポートフォリオは言語学習継続に役立つか。」(回答は4肢選択と自由記述)

質問8に対する回答は以下の通りであった。

とても：35人	やや：21人	あまり：2人	ぜんぜん：0人	N.A.：10人
---------	--------	--------	---------	----------

数量的に見ると、68人中56人、8割強の学習者がポートフォリオは学習継続に役立つと答えている。では、彼らは自由記述ではどのような意見を述べているだろうか。表11は、彼らの回答内容をカテゴリー化し、レベル別に整理したものである。

表11：「言語学習継続に見られるポートフォリオの影響」についてのコメントの概要

	入門 (A1)	初級1 (A2)
学習継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座全体がおもしろくて、続けるようになった</li> <li>生活と文化について習って、学習継続の動機付けになる</li> <li>学習目的が書いてあるから、動機付けになる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>星で自分を評価することは動機付けになる</li> </ul>

復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で習ったことを参照できる</li> <li>・弱点を見せられ、復習する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文型の再確認にいい</li> <li>・漢字、カタカナ、文法の復習にいい</li> <li>・定期的に記入すると復習にいい</li> <li>・既習の漢字・ごいを覚えるのにいい</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオは学習に役立つが、自分で勉強することも大事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオで学習計画を立てることができる</li> <li>・自己評価にいい</li> </ul>

上述したように、8割以上の回答は、「とても」「やや」であったが、その主な理由は、「復習」「学習内容の再確認」「自己評価」などであった。その他に「定期的に整理するとパフォーマンスに反映する」「学習目的が書いてあるから動機付けになる」「生活と文化について習って、学習継続の位置づけになる」「星で自分を評価することは動機付けになる」「ポートフォリオで計画を立てることができる」など、学習者の動機付けや学習設計に関わる記述が見られた。しかし、学習者の意識は、学習過程の確認とその過程の中で現在の自分の日本語力・学習内容を意識し、その過程の中にどこにいるかを気づくこと・意識することまでには至っていなかったようである。

質問9 「ポートフォリオ作成は面倒くさいか。」(回答は4肢選択)

とても：12人	やや：9人	あまり：22人	ぜんぜん：15人	N.A.：10人
---------	-------	---------	----------	----------

数量的に見ると68人中37人、おおよそ5割は、ポートフォリオ作成は「あまり／ぜんぜん面倒くさくない」と答えている。一方、おおよそ3割にとってポートフォリオ作成は「とても／やや面倒くさい」である。10人は無回答者であると考えたとポートフォリオ作成の意義、用途などは学習者に十分理解されていないようである。

質問10 「将来ポートフォリオをどう使いたいか」(回答は自由記述)

表12：「今後ポートフォリオの使用」についてのコメントの概要

	入門 (A1)	初級1 (A2)
復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと勉強したい。学習したことを見に</li> <li>・日本語の復習</li> <li>・振り返りと再評価に</li> <li>・参考書に使いたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りにいい。特に漢字</li> <li>・勉強しなかったこと、改善すべきことがわかる</li> <li>・漢字とごいの振り返りに</li> <li>・練習と復習</li> <li>・定期的にレビューし、もっと勉強すべきことに努力する</li> </ul>
自己評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価、記録、そして動機付けに使いたい</li> <li>・記録をチェックし、パフォーマンスを評価する</li> </ul>
目標確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語学習の目標確認に</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生徒に日本語を教えるのに使う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文を書いてよく練習する</li> <li>・漢字の理解にいい</li> </ul>

記述では「日本語学習の目標確認」、「自己評価、記録、そして動機付けに使いたい」と答える学習者もいたが、「復習」、「振り返り」、「参考書」によく使われることがわかる。

### 5.2.2 アンケート結果の考察

上掲のアンケートの集計結果と自由記述の分析結果から、ポートフォリオ作成の目的と、実際の学習者の活用方法・目的にギャップがあったことが明らかになった。記述を見て分かるように、ポートフォリオは自己評価のツールとしてはよく使われていたが、「学習過程記録」と「言語学習におけるポートフォリオの活用」に関する記述を見ると、学習者はポートフォリオについて、本来の目的から外れた理解をしていたように見える。それは、「学習過程記録」に記述するとき、学習者が自分自身のポートフォリオの最初の記録に戻って振り返ることをしなかったことが原因だと思われる。今回の実践では、ポートフォリオ作成は、学習過程を通して常に最初の記述と比較し、現在の自分の位置づけを把握することが主要な目的であった。同様に、「ポートフォリオの活用」を考える時、Can-do チェックシート・日本語チェックシートの記述のみを見るのではなく、「学習過程記録」を含めてポートフォリオすべてを見ることを期待していたが、記述をみると、学習者にとって学期初日に記入したものはポートフォリオの一部ではなかったように思われる。

「学習過程の記録の手段としてのポートフォリオ」については、いろいろな質問をしたが、「達成したこと」に対する学習者の意識は、コースが終わった時点で達成できたことにあり、コース参加前に目標としていたことと終了時に得られたことを比べてみて、両者の間にどのような関係性が見られるかというような視点は見られなかった。今学期の目標と来学期の目標を質問した理由は、学習者の講座開始時点と終了時点、そして将来の自分の日本語学習過程を意識させ、自分の将来像を持たせることであった。

「自己評価の手段としてのポートフォリオ」は学習者によく意識され、Can-do チェックシートと日本語チェックシートの星の数で自分の理解度を評価・確認したり、宿題、作文、語彙シートなどを振り返りに使用したりする学習者は多くいた。教師の誤用訂正を受けて、自分の言語知識とその運用を修正・確認することで、学習方法の評価をする学習者はいたが、自身の過去・将来像に比べて今自分がどこにいるか、今まで学んできたこととこれから学ぶことの関係性を大きく考えて、自己評価を行う学習者はいなかった。

「ポートフォリオ活用に対する理解度」をしてみると、やはり学習者はポートフォリオを全体的に捉えられず、その一部をポートフォリオのすべてであると理解していたようである。つまり、Can-do チェックシートと日本語チェックシート、そして宿題や漢字・語彙シートについての自由記述が多く見られ、それがポートフォリオであると理解しているように見える。学習者には、コース初日に「学習過程の記録 (My Japanese Language Study Map)」に記入した内容

がポートフォリオの重要な一部であることの自覚はなかったと思われる。彼らにとってポートフォリオとは、Can-do チェックシートと日本語チェックシートのみ限定されていたように思われる。

## 6. 課題

確かに、コース初日に記入した内容を学期末までしっかりとした形で記憶に留めておくことは、決して容易なことではないかもしれない。そこには作成側としても、いろいろ反省すべき点はある。

ポートフォリオを作成する過程の中で、学習者は自分に合った学習方法を探し、自分の学習を主導的にコントロールすることができる。そのためには、今までのように、一方的に教師に教えられたものを学び、教師が出した試験に合格すればいいというような受身的な学習ではない、つまり、学習者は教師の出した試験に合格するのが目的ではなく、自分の目標に向かって言語学習をしているという自覚を教師が繰り返し促さなければならない。このように考えると、継続的に学習者の意識や考え方を確認する必要がある、コースの中間地点でも、学習過程を確認する必要があると思われる。重要なことは、教師がポートフォリオについて学習者とコミュニケーションを取ることである。つまり、初日に詳細のポートフォリオの意義、目的、活用について説明し、その上で、教師が定期的にチェックしたり、学習者がポートフォリオ内容を発表させたりすることが必要である。それだけではなく、学習者と教師が、ともにポートフォリオの意義と活用について十分に理解を深める必要がある。

同時にポートフォリオは各学期一度きりのものではなく、継続するものであることも理解すべき点である。それは、すでに教師と学習者の意識の中にはなくてはならないものである。ポートフォリオは継続するもので、学習者は、毎学期、ポートフォリオに記入する作業を通して、各学期の目的や達成したこと、翌学期の目標などが当初の自分の学習動機や学習目的にどう繋がっているかを理解していくことだろう。このことは本実践執筆に当たって、学習者とした電話インタビューでも明らかになった。2015年7月に開始された1学期でのポートフォリオの意義について質問したところ、「最初はやったことがなくて、分かりにくかったので、まじめに取り扱わなかった」、「教師のアンケートではないかと思った」のような回答であったが、記入後は、「その意義が少しわかるようになった」ということであった。学習過程についても、「書くことで目標が明らかになり、定期的にその目標を振り返って達成できるようにがんばった。そして、学期末に達成できたかどうか確認もできる」(PMさん)という記述があった。

今後作成側として注意したいことはポートフォリオをもっとおもしろくてわかりやすくするように工夫することである。学習者にすべて記述してもらいよりいろいろと選択肢を与えて、選ばせるほうが学習者にとっても教師にとっても見やすくなる。そのため、2015年1学期から

のポートフォリオの My Japanese Language Study Map の「学習目的」では、「仕事、日本人と友達になる、インターネットを使う、映画やまんががわかる」など、「学びたいこと」は4技能の選択肢を与えることにした。ポートフォリオは一見簡単なものに見えても、やはり取り扱い次第ではその意義が伝わらなかったり、本来の活用より外れたりする可能性はあるため、本来の意味に合った活用を進めるためには、学習者・教師協働の活動が望ましいと思われる。

今回の実践は、自己評価に慣れていないインド教育制度の中での教師・学習者にとって新しい挑戦であった。そして、学習に対する意識の変化が大事で、受身の態度から主導的に学習を管理することへ導くための第一歩に過ぎなかったといえる。

[注]

- (1) 「JF 日本語教育スタンダード 2010 第二版」 p.6
- (2) 「JF 日本語教育スタンダード 2010 利用者ガイドブック」 p.22

[参考文献]

- 国際交流基金 (2010) 『JF 日本語教育スタンダード 2010[第二版]』  
国際交流基金 (2010) 『JF 日本語教育スタンダード 2010 利用者ガイドブック』